

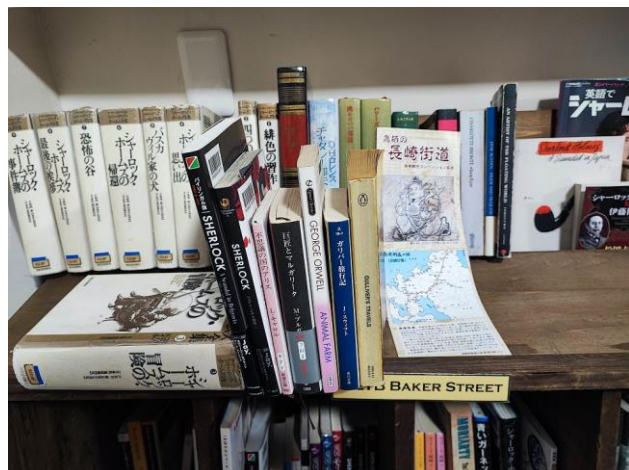


生涯学習センター図書コーナーだより

Vol.11 2026. Oct.

鳥栖市教育委員会生涯学習課 (Tel.0942-85-3694)

あの有名な旅人は鳥栖を通ったのか？



10月の本棚

季節も秋になり、やっと少し涼しくなりました。なんだか旅にでも出たくなる気分です。旅といえば、皆さんご存じの「ガリバー旅行記」という本があります。この本が出版されたのは1726年10月、今年は、出版から300年ということになります。この物語はアイルランドの作家ジョナサン・スウィフトが書いた4部構成の物語で、ガリバーがいろいろな国を旅しますが、唯一実在する国があります。それが日本です。物語の中でガリバーは江戸から Nangasack (長崎)まで移動しています。ということは長崎街道を歩いて長崎まで行く途中、田代宿か轟木宿に泊まったかも。いろいろ想像すると面白いです。勿論、原作の中にはそんなことは書いてありませんので、ここから先は自分で創作してみたいはいかがでしょうか。

今月はガリバー旅行記のほか、ファンタジーや風刺的な物語を紹介します。それから、10月18日(日)に「第25回とす長崎街道まつり」が開催されます。皆さん、ガリバーになった気分で長崎街道を歩いてみてください。

○「ガリバー旅行記(ジョナサン・スウィフト 著)」 一見子供向けの奇想天外なファンタジーでありながら、人間社会の本質を辛辣に暴いた風刺小説です。(英語版もあります。)

○「Animal Farm(George Orwell 著)」(英語版) 人間を豚や馬などの動物に見立てることにより、民主主義が全体主義や権威主義へと陥る危険性、革命が独裁体制と専制政治によって裏切られ、革命以前よりも悪くなっていく過程を痛烈かつ寓話的に描いた物語であり、「社会のシステムがいかんにして狂っていくか」をミリ単位で解剖した作品です。

○「巨匠とマルガリータ(ミハイル・ブルガーコフ 著)」 この作品は、ソ連の暗黒期に命がけで執筆された、幻想文学、風刺、恋愛、そして宗教哲学が奇跡の融合を遂げた 20 世紀ロシア文学最高峰の傑作です。当時のソ連当局によって体制批判と受け止められ著者の生前は出版が許されず、死後 26 年を経てようやく日の目を浴びた「呪われた名著」でもあります。

○「不思議の国のアリス(ルイス・キャロル 著)」 「ここにはどんな意味があるのだろうか？」と深く考えず、ナンセンスな世界に身を任せて笑うこと。それこそが、著者キャロルが仕掛けた最高の遊び方であり、160 年以上経っても世界中で愛され続ける、児童文学史における革命的な傑作です。

※ [Baker Street Irregulars' Information](#)

アイリーン・アドラー： アイリーンはシャーロック・ホームズを唯一負かした女性で、ホームズは彼女について回想するとき常に「あの女性(ひと)」呼んでいます。原作に登場するのは「ボヘミアの醜聞～シャーロック・ホームズの冒険より」のみですが、読者に強烈な印象を残しました。ホームズが、ボヘミア王からいかなる報酬よりも彼女の写真を望んだほど心を動かされた「唯一の女性」との間のロマンスについて、後のパステューシュ作家達は様々な解釈で描いています。(BBC 制作ドラマ「SHERLOCK ベルグレイヴィアの醜聞」など)

※Baker Street Irregulars(ベーカー街遊撃隊)

ストリートチルドレン達の集まりで、シャーロック・ホームズの協力者達 シャーロック曰く「スコットランドヤード(警官)より役に立つ。」